

エコロジーセミナー 「産廃法実務の最前線」が終了 上智大学法科大学院

けた方向性を多角的に検討するもので、昨年同大
学で行われた公開講座か
らさらに内容を深掘した
ものとなった。

北村氏の「最近の産廃
判例の同行と留意点」の
講義を皮切りに、排出事
業者、処理業者、有識者
など毎回さまざまな立場
の関係者が講師を務め、
「製造業が抱える廃棄物
処理法上の課題」、「処理
業者が抱える廃棄物処理
法上の課題」、「廃棄物処
理法と家電リサイクル
法」、「一般廃棄物と産業
廃棄物の揺れ動く境界
線」、「自治体条例による
現地確認義務化の最新動
向」といったテーマで講
義が行われた。

上智大学法科大学院の
ソフィアエコロジーセミ
ナー「産業廃棄物法実務
の最前線」が2カ月間、
計7回にわたって行わ
れ、このほど好評のうち
に終了した。同セミナー
は同法科大学院長の北村
喜宣氏が中心となり、現
行の廃棄物処理法はどの
ような制度上・運用上の
課題を抱え、どのような
方向に改正されるべきか
などをテーマに、具体的
な事例報告を通じて問題
点を明確にして改正に向

き、最終回は「廃
棄物処理法改正に向けた
あるべき姿」をテーマに
したパネル討議を実施。
北村氏のほか環境省産業
廃棄物課法令係長の西川
絵理氏、元産廃Gメンで
千葉県職員の前正佳

最終回はパネル討議を実施



氏、行政書士高
橋環境法務事務
所所長の高橋利
行氏がパネリス
トとして参加し
た。廃棄物の定
義、区分、欠格
要件の義務的取
り消し、規制強
化・緩和、優良
産廃業者認定制
度などについて
活発な意見交換
が行われた。